

「こおりやまの米」通信



郡山市
イメージキャラクター
「かくとくん」

平成28年6月20日

編集:郡山市

JA 福島さくら郡山地区本部 (TEL. 921-0533)

NOSAI 福島郡山田村支所 (TEL. 933-3307)

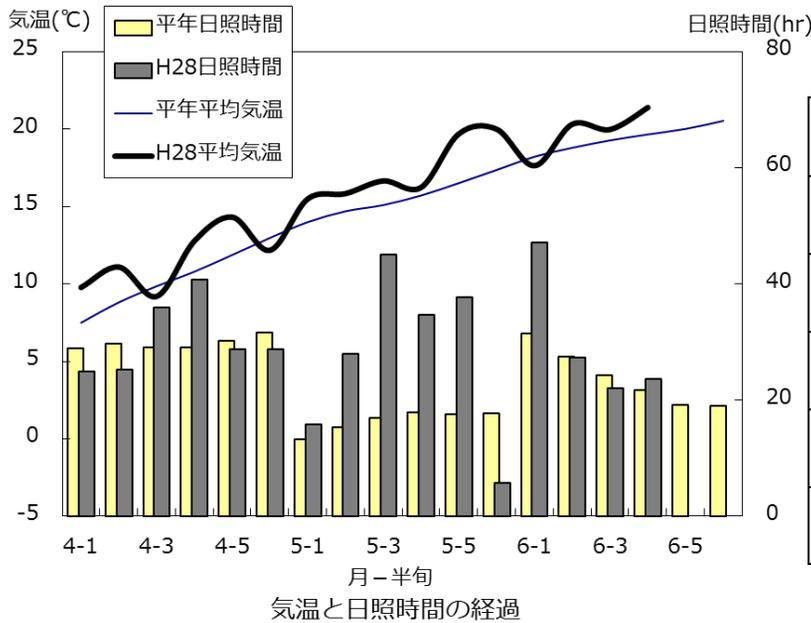
県中農林事務所農業振興普及部 (TEL. 935-1310)

発行:郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市園芸畜産振興課 TEL924-3761)

Vol.5 「除草・防除・中干し」 次回は7月上旬

1 生育概況

- (1) 市内平坦部：草丈はほぼ平年並み、茎数は少ない傾向にあります。葉齢の伸展はやや緩慢です。
湖南地区：草丈は昨年より長く、茎数は昨年並みです。葉齢はやや進展しています。
- (2) イネミズゾウムシ：発生は平年より早く、食害は極わずかでした。
イネドロオウムシ：発生は平年より早く、成虫の本田侵入は極わずかでした。
葉いもち：発生時期・発生程度とも平年並みと予想されています（5月下旬時点）。



6月20日 生育調査結果

品種 (調査地点)	年次	草丈 (cm)	茎数(本)		葉齢
			株あたり	m ² あたり	
コシヒカリ (三穂田)	本年	36.9	13.8	201	6.0
	平年比(%)*差	100	63	54	-1.2
コシヒカリ (田村)	本年	44.0	27.2	506	5.5
	平年比(%)*差	100	98	92	-0.5
ひとめぼれ (安積)	本年	31.1	15.0	230	5.5
	平年比(%)*差	96	89	81	0.2
天のつぶ (三穂田)	本年	35.3	13.6	248	6.6
	前年比(%)*差	106	74	66	0.0
あきたこまち (湖南)	本年	36.0	13.2	214	7.1
	平年比(%)*差	126	107	90	0.8

2 天気予報

【1か月(6/18~7/17)予報】(6月16日 仙台管区气象台発表)

向こう1か月の平均気温は高く、期間の前半はかなり高くなる見込みです。

また、降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。

1週目の気温は、期間のはじめは晴れますが、その後は曇りや雨の日が多いでしょう。

2週目の気温は、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。



福島県オリジナル品種「天のつぶ」を生産する方へ！

- 「天のつぶ」は ①倒伏しにくい ② いもち病(特に穂いもち)に強い
③ 大粒で多収である等の特徴があり、栽培しやすい品種です。

下記の栽培上のチェックポイントを確認しましょう！

【生育目標】

収量600kg/10a以上を目標とした場合、幼穂形成始期(出穂25日前)の茎数は520~560本/m²(60株/坪の場合、茎数約30本/株)が目安となります。

【追肥】

幼穂形成始期の追肥により、登熟が向上します。窒素成分で2kg/10aを目安に追肥しましょう。(葉色が濃い場合には少なめにし、基肥一発肥料の場合は追肥は控えてください。)

【斑点米カメムシ類の防除】

大粒の「天のつぶ」はカメムシ類も大好きです。薬散による防除、畦畔除草など対策を適切に行いましょう。

農業のボトル等の適正処理の おねがい

農業のボトル等の農業用使用済プラスチック類は「産業廃棄物」となるため、ごみ集積場やクリーンセンターへの搬入はできません。

JA福島さくらでは回収処理代行を実施しており、次の回収は11月下旬の予定です。詳しくはお近くのJA支店へお問い合わせください。

！！平成28年度福島県
農業危害防止運動展開中！！
(6/10~9/10)

農業(特に粉剤・液剤)を使用する際は、近隣作物に飛散しないように注意してください。

3 作業のめやす 放射性セシウムによる米の汚染を防ぐため、倒伏防止の徹底を！！

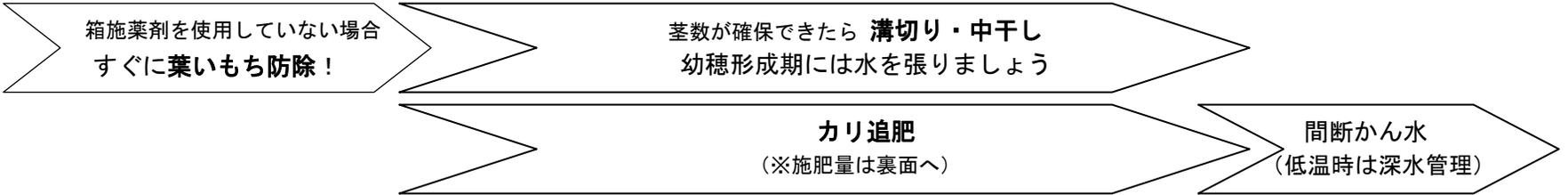
6/20

6/25

6/30

7/5

7/10



4 葉いもち防除 葉いもちを発生させないことが最善の穂いもち対策です

いもちに感染しやすい時期になりました。置き苗は直ちに処分しましょう。

・まだ防除していない水田

オリゼメート粒剤（初発の10日前～初発時、但し収穫14日前まで）等を、葉いもち防除のため、すぐに散布しましょう。予防防除は地区全体で取り組むと効果が高まります。

・移植時に箱粒剤を使用した水田

7月中～下旬にコラトップ粒剤5（出穂30～5日前）等で、穂いもち防除を行ってください。

5 水管理 倒伏防止のためにしっかり中干しを！

- ① 茎数が少ないほ場では、引き続き浅水管理を行い、分けつを促進しましょう。
- ② 株当たり20本程度の分けつを確保したら中干しを行い、無効茎を抑えましょう。
- ③ 溝切りを行うと田面が早く乾き、また秋作業までの水管理が容易になります。
- ④ 中干しは幼穂形成期前までに済ませましょう。



中干しは田面に亀裂が入り足跡がつく程度！

中干しの効果

- | | | | | | |
|--------------------|---|--------|-------------|---|--------------------|
| (1) 硫化水素など有害物質の排除 | } | 根ぐされ防止 | 生ワラ施用田、粘質土壌 | } | 強めの中干し |
| (2) 還元状態の土壌 pH を補正 | | | | | |
| (3) 土壌を固くする | } | 倒伏防止 | 地力のない水田 | } | 間断かん水で
(弱めの中干し) |
| (4) 水を切ることで茎数増加を抑制 | | | | | |

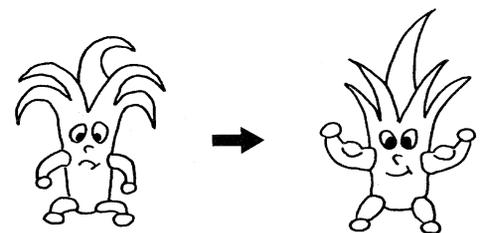
6 カリ追肥 倒伏させないために窒素を控え、カリ追肥で稲を丈夫に！！

6月下旬～7月始めにカリの追肥を行うことで、茎と根が丈夫になります。

ケイ酸カリ（出穂40日前） 20kg/10a：でき過ぎた田、コシヒカリに有効
塩化カリ（出穂35日前） 7kg/10a：一般田

追肥の効果

- (1) 稲の体を強くする。(いもち病等にかかりにくくする。倒伏防止)
- (2) 根の働きが良くなる。(下葉の枯れ上りを防止→登熟向上)
- (3) 籾殻を大きくしたり、籾の奇形が少なくなる。
穂数、籾数、千粒重の増加が期待できる。



7 雑草防除 ホタルイ・アゼナ対策

雑草が残った場合は、下表を参考に防除してください。

雑草の種類	イネの茎数	除草剤	使用時期	収穫前日数	使用上の注意
広葉雑草 (ホタルイ、アゼナ等)だけ残った田	茎数がまだ確保できていない田	バサグラン粒剤(ナトリウム塩) 3～4kg/10a	移植後15～55日	60日前まで	落水し、尻水口をしめて散布する
	株20本以上確保した田	グラスジンMナトリウム液剤 ※ 300～500ml/10a (70～100L/10a)	有効分けつ終止期～幼穂形成期前	60日前まで	
広葉とヒエの両方残った田	茎数の確保に関係なく使用できる ただしノビエ5葉期まで	クリンチャーパスME液剤 1000ml/10a (70～100L/10a)	移植後15日～ノビエ5葉期	50日前まで	湛水散布。多年生雑草は生育段階によって効果が劣るので、必ず適期に散布する
		フォローアップ1キロ粒剤 1kg/10a	移植後15日～ノビエ5葉期	60日前まで	

※グラスジンMナトリウム液剤は分けつを止める作用があるので、茎数を確保してから使います。

この資料は、平成28年6月8日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。